

実践事例⑫ 杉並区立天沼中学校

1 取組・活動名

「ボランティアマインドの醸成」地域ぐるみの防災教育

2 取組・活動のねらい

- 災害救援活動や地域貢献活動への意欲と関心を高める。
- 地域社会の中でボランティア活動をすることにより、自尊感情を高める。
- 社会貢献の精神の下、困難を克服する強い意思をもつ生徒を育成する。

3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・3時間」

「特別活動・16時間」（リーダー育成）

4 実施上の工夫

- ・ 本校の特色ある教育活動として位置付けられている「フレンドシップ」「ボランティアシップ」の精神の下、地域運営学校としての組織や学校支援本部、地域教育推進協議会のサポート体制を活用して地域と連携した。
- ・ 杉並区中学生レスキュー隊に属する生徒や、ボランティア部を中心としたボランティア活動の実績を生かし、中学生による地域で役立つボランティア活動に、主体的、実践的に取り組ませた。
- ・ 全校生徒の4割が参加する杉並区中学生レスキュー隊(天沼中レスキュー隊)を中心に、備蓄食糧に関する知識や、災害時救援活動について防災セミナーを開催して体験的に学ばせ、ボランティアリーダーを育成した。

5 本取組・活動の内容



「防災授業への主体的参加・・・HUG 訓練」

- ・ 地域の震災救援所運営委員や卒業生、地域の協協力者や参集者（総参加者数500名）と共に、全校生徒が参加した。
- ・ 3年生は、疑似体験として、HUG（避難所運営ゲーム）訓練を行い、避難所における様々な出来事に対応していくかなど、発災時における中学生としての役割を考えながら参加した。



「防災授業への主体的参加・・・炊き出し」

- ・ 2年生は薪を使用した炊き出しで、火おこしから白米の炊飯、おにぎりづくりまでを分担して行った。災害時のライフラインが断絶した状況を想定し、火の扱いや衛生面での配慮等も学んだ。
- ・ 学校支援本部やPTAのサポートを受けながら、全校生徒を含む参加者全員におにぎりを配るところまで、責任をもって実施した。



「防災授業への主体的参加・・・応急手当等」

- ・ 1年生は、震災救援所訓練のうち、放水訓練、仮設トイレ設置、AED操作や包帯法などの救急救命、応急手当の技術を身に付けた。
- ・ 震災救援所運営委員の方や消防署、消防団などの地域の方の指導を受けたり、一般の方々と交流したりする場面もあり、地域社会で支えられていることが実感できる活動を体験できた。

6 成果

- ・ 「防災教育」に全校で取り組み、防災意識を高めることができた。6月に募集した杉並区中学生レスキュー隊に116名応募、全校生徒の4割が隊員として校内でも活動するなど、ボランティア意識を高めることができた。
- ・ 「フレンドシップ」「ボランティアシップ」をスローガンとして掲げ、地域におけるボランティア活動を活発化し、地域ぐるみの防災教育を推進した。また、社会に貢献しようとする意欲をフレンドシッププログラムで育て、ボランティアシップカードを基に奉仕活動を推進したことで、子供たちの自尊感情の高まりがみられた。
- ・ その他、「28年度版私たちが選んだオリンピック、パラリンピックの言葉～ことだま百選」のレポートを全校生徒が作成、冊子にして共有した。また、保健体育の授業では、スペシャルオリンピックスにおけるフロアホッケー、フットベース、パラリンピック種目のゴールボールを体験したり、視覚障害者のパラリンピアンから話を聞いたりしたことから、特に障害者のスポーツについての理解や支援の在り方について考えるきっかけとなった。